JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	ノーベル賞のマネジメントと授賞選考システム : キーパーソンへのインタビューを中心として(科学技術政策，第20回年次学術大会講演要旨集II)
Author(s)	赤池，伸一
Citation	年次学術大会講演要旨集，20: 1012-1015
Issue Date	2005-10-22
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/6226
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

2J20

ノーベル賞のマネジメントと授賞選考システム
—キーパーソンへのインタビューを中心として—

○赤池伸一（内閣府／前在スウェーデン大使館）

１．序

ノーベル賞は、ダイナマイトの発明者であるアルフレッド・ノーベルの遺言に基づき１９０１年に創設された賞であり、自然科学分野において世界で最も権威のある賞である。その選考・授賞プロセスは如何なる政府、団体からの独立を旨としている。ノーベル賞は、授賞式等の運営、資金管理等を行うノーベル財団、選考・授賞を行う授賞機関並びにノーベル賞の普及啓蒙等を行うグループ法人が相互に連携しあって運営されている。本発表では、ノーベル賞の運営の仕組みについて概観するとともに、キーパーソンへのインタビューにより、その特色を明らかにしたい。

２．ノーベル賞の仕組み

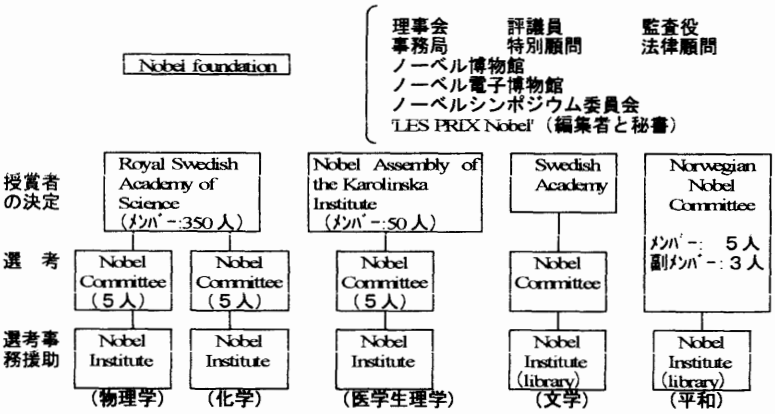
（１）ノーベル賞の構成

ノーベル賞はノーベルの遺言では物理学賞、化学賞、医学生理学賞、文学賞及び平和賞からなることとされている。１９６９年より、同様のプロセスにより選考される経済学賞が追加された（正式には「アルフレッド・ノーベル記念スウェーデン中央銀行賞」であり、ノーベル賞ではない）。

（２）授賞機関

・王立科学アカデミー　物理学賞、化学賞、経済学賞
・カロリンスカ研究所　医学生理学賞
・スウェーデンアカデミー　文学賞
・ノルウェー・ノーベル委員会　平和賞

（参考）ノーベル賞関係組織



（３）選考スケジュール

９月	次年度の候補者の推薦依頼
１月３１日	候補者の推薦締め切り
１０月初旬～中旬	受賞者発表（各授賞機関）
１２月１０日	授賞式・晩餐会
１２月１１日	国王主催晩餐会（王宮）

授賞式の前後１週間はノーベルウィークと呼ばれ、講演会、テレビインタビュー等が行われる。

（４）グループ法人

ノーベル財団は、その事業がノーベルの遺言で定められたものに限定されるため、普及啓発事業のため、持ち株会社を介して、４つのグループ法人を運営している。

・ノーベル・メディア：ノーベル賞関係の映像、知的所有権等の管理
・ノーベル・ウェブ社：ウェブサイトの運営、教育用ソフトウエア制作等
・ノーベル博物館：ノーベル賞１００周年を記念して設立された博物館。
　　２００２年３月には東京の国立科学博物館で巡回展示を行った。
・ノーベル平和センター：平和賞に関する普及事業等

３．ノーベル賞関係者へのインタビュー

ノーベル財団専務理事、ノーベル物理学・化学・医学生理学各賞事務局長（高名な研究者が着任し１０年以上の長期にわたって在任する）、ノーベル博物館長、ノーベル・ウェブ社社長等にインタビューを行った。興味深い点は次の通り。

○ノーベル賞の精神

・ノーベル財団は如何なる政府の支援を受けない。また、共催イベントについても慎重にお断りしている。（ノーベル財団専務理事）
・人類への利益ということ。特に医学生理学賞は強く意識している。（元医学生理学賞事務局長）
・非政治性（元医学生理学賞事務局長）

○ノーベル賞の選考過程

・ノーベル賞は、まず、世界中の研究者に推薦依頼を出すことから始まる。依頼状は数千だが、戻ってくるのは数百程度。ここで推薦されていなければ、候補者にはなれない。（各賞事務局長より多数）
・各推薦書は１ページ程度であるが、興味を誘うものについてはノーベル委員会で追加調査が行われる。新しい成果であっても、５～６年で消えるものもあり、慎重に精査される。このような追加調査がされるのは５～１５位である。（元医学生理学賞事務局長）
・同じ人を多数の推薦者が推薦する場合は注意してみており、組織的な動きは排除している。（元医学生理学賞事務局長）

・（分野に着目するのか人に着目するのかという問いに対し、）「新規性」、「科学界への影響」等の観点から人に着目して選ぶ。予め分野を特定してということではない。（各賞事務局長より多数）
・前年度からの候補者リストは引き継がれ、継続性に配慮している。事務局長が10年以上在任するのも、継続性への配慮がある。（元医学生理学賞事務局長）
・物理学賞は極めて「スペシフィックな成果」に与えられる傾向がある。スペシフィックとは、プラスとマイナスの符号の違いにより、全く違う結論になるが、そのような成果ということ。（物理学賞事務局長）
・物理学賞は「最初であること」がとても重要。委員は最初が誰かを突き止めるのに精力を使っている。（物理学賞事務局長）
・選考の秘密が漏れたという経験はない。漏らした研究者は学界から永久に排除される。平和賞は政治家だから知らないが。（物理学賞事務局長）
・物理学賞はインパクトが重要（物理学賞事務局長）
・化学賞では、「ドアを開く」研究が重要。ノーベル賞は筆に授与するものだが、その分野の発展と相互に関係がある。ある科学的な発見が本当に最初なのかを見逃す訳にはいかない。本当にパイオニアかを精査する。（田中氏の授賞に言及し、）正にそれがノーベル委員会の仕事。（化学賞事務局長）
・ノーベル賞は「最高の発見」に与えられるべきもの。（医学生理学賞事務局長）
・選考プロセスが秘密（50年後に公開）は、選考に関わる人が友人や同僚の影響を受けずに、真実の意見を言うようにするためのものである。（医学生理学賞事務局長）
・最近は学際的な研究が増えており、物理学賞、化学賞、生物学賞の事務局長の間で年数回は連絡をとりあう。（各賞事務局長）
・いかなる政府、団体からも選考は独立している。また、選考に関する情報が事前にグループ法人に与えられることはない。（ノーベル財団専務理事）

○授賞式

・授賞式の招待者は各授賞機関からの推薦をもとに財団が調整して決める。受賞者の家族は、夫人及び6歳以下の子供は負担したと思うが、それ以外は受賞者の推薦枠であっても自己負担となる。（ノーベル財団専務理事）
・グループ法人のスポンサーのために授賞式、晩餐会の席を用意している。（ノーベル・ウェブ社社長）

○グループ法人の事業

・（以前は普及啓発事業に熱心でなかったが、方針変更があったのかという問いに対し、）そのように考えて差し支えない。（ノーベル財団専務理事）
・グループ法人4社の事業には適正な枠がはめられており、ノーベル賞の名称の使用も同4社に限定されている。（ノーベル財団専務理事）
・ノーベル・ウェブ社は、ノーベル賞ウェブサイトの運営の他、スポンサーを得てノーベル賞を素材とした教育支援プログラム（ゲーム等）の製作を行っている。

（ノーベル・ウェブ社）

・ノーベル博物館は、スウェーデン政府が建物を建設し、ストックホルム市が光熱水料等の維持費を負担することで、新博物館を建設する予定。（ノーベル博物館長）

○日本へのメッセージ

・「ノーベル賞５０年で３０人」という目標については、誤解を招くおそれがある。日本政府がロビー活動をしているとは思わないが、ふさわしくないのではないか。日本国内で予算獲得のための目標としては理解できるが、財団としては苦言を呈さねばならない。（ノーベル財団専務理事）

・「ノーベル賞５０年で３０人」という目標については、日本は研究の面で優れた国であり、ノーベル賞に関心を持ってもらうのは良いことだ。しかし、誤解を招くような記述は賢くないのではないか。（物理学賞事務局長）

・基礎研究を忘れないで欲しい。これを支える学校制度も重要。（化学賞事務局長）

・客員研究員など、日本の博物館等とのスタッフの交流を拡充したい。また、日本企業からの寄付に期待したい。（ノーベル博物館長）

○その他

・新しい賞の創設は考えていない。（ノーベル財団専務理事）

・発表の際の各国語訳はポスドクなど委員が個別に探してくる場合が多い。秘密が漏れたことはない。（化学賞事務局長）

４．考察

ノーベル賞は世界的な有名な賞であるが、その具体的な選考プロセスやグループ法人の活動などは我が国では知られていない。今回の関係者へのインタビューを通じて、ノーベル賞の実情が多少なりとも明らかになった。今後は、機会をとらえて更なるインタビューを行い、得られた情報の体系化を行っていきたい。